

## 八王子市立第四、第十小学校

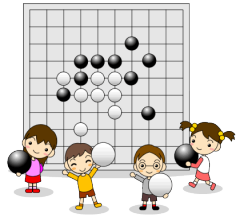
放課後子ども教室 囲碁教室だより 四号 2016年12月  
編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com



先日、八王子囲碁連盟の指導者である信江峻七段が第四小学校と第十小学校の放課後子ども教室を視察され、子供達に手ほどきをしてくださいました。またのお越しをお待ちしています。

### 第一話

人工知能(AI)を使った囲碁ソフトがプロ棋士を相手に対戦しています。過日は、AlphaGo(アルファ碁) というソフトが韓国の棋士と五番勝負をし、なんと四勝一敗としました。先週は、日本人が開発したソフトでは趙治勲九段と対戦して一勝二敗と善戦しています。現在、国内で最強の棋士といわれる井山裕太王座は「驚きのスピードで進化している。今後どこまで強くなるか楽しみ。」という具合です。囲碁ソフトは年々進化し、プロ棋士もそれに伴い強くなっていくと思われます。私はずぶの素人ですが早晚、プロ棋士を追い越していくと予測しておきます。

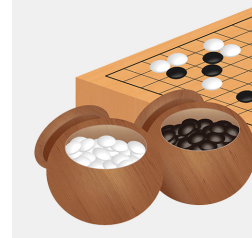


### 第二話

マディソンという街にあるウィスコンシン大学で研究していたとき、キャンパスにある大きなカフェテリアの端で中国人や韓国人が囲碁をやっていました。私は勉強に追いまわられて長閑と囲碁を打つ余裕はありませんでした。あの時、囲碁をやっていたら今のように昇段でもがくこともなかったらと思うます。ですが「すべてのことに時がある」という言葉が支えとなり学位を貰いました。今は職業としての研究と教育から解放され、囲碁の奥深さに翻弄されながらうんちくを傾ける喜びを感じています。

### 第三話

高段者と囲碁を打つとき、その手の早さに驚きます。第一感で打つべきところが分かるようです。石の形や流れを素早く読み取って正しい場所に石を置いていくのです。囲碁では昔から研究されてきて最善とされる、きまった石の打ち方を「定石」といいますが、定石はもちろん全て頭の中に刻み込み、さらにそれを越えるような石の展開を考えるのが高段者。子供達もやがて第一感でピンとを感じる石の形を覚えていくことでしょう。「パターン認識」といわれる状況の把握の仕方です。



### 第四話

先日、第四小学校の学芸会を見学に行きました。一年から六年まで劇を演じていました。暗記した台詞や歌、動作、表情、声量が聴衆に伝わり笑いと拍手を誘っていました。第十小学校では落語寄席がありこちらでも楽しんできました。落語は私の趣味というか「道落」でもあります。寄席が終わり囲碁教室に戻ると子どもが待っていました。その間、大橋利行四段が手ほどきしてくださいました。(；；)

お子さんの行動などで気掛かりなこと、勉強の仕方や学習の進み具合で心配なことなどの相談に乗ります。もちろんボランティアです。

#### 囲碁にまつわる故事

「大局観」 的確な状況判断をする資質と能力のことです。先の見通しを立てるときに必要な問題解決能力です。